

PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

2000年3月 No.113

生命を守るクリスチャンの声

日々の生活の中で、クリスチャンらしく行動するとはどういうことでしょうか？例えば、誰かがあなたの頬を打ったとします。そのような行為

は、クリスチャンらしい行為と言えるでしょうか？もちろん「違つ」と答えるでしょう。このように、人をなぐさわくという行為は、中絶で胎児を殺しても良きクリスチャンでいられると考える人がいるのです。このような考え方は、根本から間違っています。殺人が許されて、人になぐる事が許されないなどということはありません。クリスチャンであるということは、生命あるものの側に立つということです。いつ、いかなる場合でも、罪無き者の殺人に反対するということです。すべての段階、すべての状況において、人命を尊重するということなのです。

私たちの社会では、多くの命が危険にさらされています。ほとんどの場合、被害者は法によって権利を守り、償いを受けることができます。しかし、ある種の人々だけは、日常的に暴力を受けながら、全く法に訴えることができません。法律は、彼らのことを人間としてすら認めていないような状況です。このある種の人々とは、もちろん胎児のことです。私たち以外に、彼らには、弁護してくれる人が誰もいません。私たちは、良

きクリスチャンにふさわしく、彼らの要求を認識し、代弁しているのでしょうか？

カステロのマーガレットは、望まねずして生まれてきた子どもたちの保護者として有名な聖女です。彼女は生まれながらの盲目と猫背で、醜い容姿でした。町の名士であった両親は、彼女を娘として公表することを恥じ、なんと13年間も地下牢に閉じ込めていたのです！このことを知る人はいましたが、彼らにはマーガレットの両親に抗議する勇気がありませんでした。もし私たちがその時代に生きていて、マーガレットの窮状を知っていたら、抗議することができたでしょうか？また、そうすることがクリスチャンにふさわしい行動と言えるでしょうか？

中絶問題を考えることは、たった一人の命についてではなく、同じような危機にさらされている何百万もの命について考えることなのです。日本やアメリカでは、毎日四千人から五千人もの胎児が殺されていますが、そのことに対する抗議は何も起こっていません。話すことも書くことも投票することも抗議することも祈ることさえもできない胎児のために、一体誰が行動すべきなのでしょうか。

世の中には、胎児は人間ではないのだからと言う人がいますが、その

ような考えを認めてはいけません。受胎の瞬間から、胎児は人間なのです。それが私たちの考えではなく、事実であることは、どんな胎児学の教科書にも載っています。ある人が人間か人間でないかは、嗜好や信仰の問題ではなく、事実によって判断するものです。これからも引き続き胎児が殺され、そのことに対して私たちが沈黙を続けるなら、それはキリスト教精神と人類社会への裏切り行為となります。さらに、中絶は母親を肉体的、精神的、社会的、宗教的に苦しめるものですから、私たちは彼女たちをも裏切ることとなります。プロ・ライフであり、子どもを救うことはその母をも救うことになるからです。

ですから、命のために恐れることなく声をあげて下さい。中絶反対の意思を示して下さい。人の意見を変えることはできないなどと思いつけないで下さい。中絶問題についての人の考えを正してあげることが、一人の人の命を救うことになるかも知れないのです。たとえ考えを変えようとしない人がいたとしても、とにかく話してみして下さい。そうすることで、少なくともあなたは生命の尊厳への自分の信念に忠実であることができます。一度きりでなく、何度でも意見を言うことも大切です。

往々にして、事の重要性は、あなたがどれだけそのことについて主張するかで計られるものです。ですから、私たちは中絶問題を常に監視し、人々の注意を喚起する必要があります。その方法は、人との会話や会合での意見の表明、マスコミへの投書など、いろいろあります。どのような方法でもいいから、とにかく自分の意見を主張しましょう！「今さらそんな古い問題を持ち出してきて」などと言わせてはいけません。今日行われた中絶は、昨日の中絶とは全く別物なのです。今日殺された四、五千人の命は、今日初めて殺されたのですから！中絶は、そのすべてが新しい悲劇であって、ひとつひとつが新しい反応、新しい抗議を生むのです。

いつの日か、歴史がこの問題の審判を下すでしょう。未来の歴史学者が私たちの時代を振り返って、中絶によるおびただしい数の死者を見た時、私たちへの評価はどうなるのでしょうか？その時代に生きた私たちに、何と言うのでしょうか？中絶に対して抗議しなかった臆病者が、それとも信念に従って抗議した真のクリスチャンか。

「神父様。教会に来ていた私たちが、教会に来ない人たちがこのお話を聞く必要があると思います」と言う人がいます。そのとおりです。それでは行って彼らに告げなさい。胎児とその母を愛し、命の大切さを教えて下さるキリストを愛しましょう」と述べようではありませんか。

赤ちゃんの癒す力

護婦は彼らがうつ状態から脱することができるようあらゆることを試みましたが、だめでした。

赤ちゃんが何を考えているだろうかとか、赤ちゃんの心に何が起こっているのだろうかとか考へたことがありますか。私は赤ちゃんに本当に戸惑った時がありました。私は赤ちゃんにどう話しかけ、赤ちゃんとう関係を持ち、さらにはどう理解したらいいかわかりませんでした。どうしてお母さんが赤ちゃんが求めているものや、どこが痛いのかや、赤ちゃんの喜ばし方がわかるのか私はよく不思議に思いました。というのはお母さんは普通の言葉で赤ちゃんと意思疎通はできないからでした。

一九六八年に聖職に就くまで、赤ちゃんのために働き、赤ちゃんのことをよくわかるようになる時が来ようとは、考えたこともありませんでした。私は、赤ちゃんにはみんな感情と意志があること、赤ちゃんの性格が早い時期から現われること、そして情緒に訴えることの方が言葉で訴えるよりも優先することを知りました。

赤ちゃんを満足させるのは簡単です。ただ赤ちゃんのそばに

最終的に行き詰まった結果、いいアイデアが浮かびました。

彼女は他の看護婦たちを呼び集めて、「病院内の末期状態にある赤ちゃんを全て集めて、これらの退役軍人たちの胸体に赤ちゃんをうつぶせにして縛りつけなさい。」と言いました。病室を出ていくとき、彼女は退役軍人たちにこう言いました。「みなさん、この赤ちゃんたちはもうすぐ死ぬんです。面会者もなく、愛してくれる人もいない子がほとんどです。だれとも絆がないのです。そしてあなた方は何もすることはありません。『あなたたちの仕事は、これらの赤ちゃんを愛し、あげることです。』」

その看護婦は病室から出てきました。看護婦たちはこのことを毎日繰り返しました。一週間経たないうちに、兵士たちはうつ状態を脱し、赤ちゃんたちの世話を始めました。最初全員が抵抗していましたが、目を開けるたびに赤ちゃんの目が、兵士たちの心に当然あるはずの思いやりの心を探し求めて、魂まで突きささってくるのです。もし私たちの愛といたわりに

包まれていれば、赤ちゃんは死ぬという現実を受け入れることができる。私は思うのです。でも、自分たちが望まれてなく、愛されず、使い捨てられるものだと気づいたとき、これらの最も罪のない、無力な赤ちゃんが必然的に感じる悲劇的な拒絶のことを考えてみてください。

もしあなたがもっとうまく人生の勝利者になりたいのなら、赤ちゃんから、どうすれば暖かい心を持ち、生命の神秘に心を開け、より完全な人間に近づけるかを学んでください。赤ちゃんが生まれつき持っている善良さが、人間の子どもを作る能力と生まれる寸前の命を破壊するために人間が考えだした全ての手段の邪悪さを私たちが理解する手助けとなるでしょう。

マシュー・ハビガー 産科学博士

アンドレアの場合

15週半で中絶をしました。決断が遅すぎましたが、とにかく混乱していたのです。あまりに混乱し、その子どもが欲しいかどうかすらわからなくなっていました。20歳の大学生で、家族と一緒に住んでいたし、あと2年で卒業したらニューズキャスターになりたいと、2000年の卒業を目指していました。彼も私も予期せぬ事に驚きましたが、自分の中に母性が芽生え出してもいました。両親からは、中絶するか家を出るかどちらか選べと言われ、どこにも行く所などないし、とても不安でした。母性よりも混乱が勝り、病院の前を何十回も行ったり来たりした末、中絶しました。最初は身体の痛みだったのが、今は心の痛みと闘っています。

今、7ヶ月位の妊婦をみると自分もそうになっていたはずなのに泣けてきます。再び生理が始まった時もショックでした。この辛さは言葉では表せません。今、私はずっと自分を支えてくれる人を求めています。似たような状況にある人のことが気になってしかたありません。

SafeHavenInn.net/498



『キリストの寛大さが鍵』

中絶は殺人であると私は心から信じています。しかし、ときに、『中絶を受けた女性は自分の子どもを殺した』というスローガンにそうじゃないと心の中で言っている自分に気づきます。

実際には、医者が赤ちゃんを殺したのです。医者が発達中の人間を殺すための実際の物理的行動をとったのです。

この考え方は、最初は、意味論的な論争、あるいは実際に中絶を受けた人の「言い訳」として使われていました。しかし、合法化された中絶の現実を理解するために重要な考え方であると私は思っています。

それが殺人？

多くの女性、特に若い十代は、中絶を受けるよう多大な圧力を受けます。または、権威の象徴である両親や、医者や、他の専門家

に決断をゆだねるよう迫られます。これらの多くの女の子達は、胎児の発達や、中絶の影響について極端に無知であるため、彼女らに最もらしい助言を与えてくれる大人を当然信じてしまうのです。後になって、一人の人間を、しかも自分の子どもを殺してしまったことが分かってきます。そして、自分のしてしまった

ことに、さらには、自分の信頼していた者が間違っていたということに気づき、大きなショックを受けるのです。

14歳で中絶を受け、15歳までに少なくとも三回入院させられた女の子を私は知っています。もし中絶を受けないと暴力を振るうと父親に脅された、と彼女は私に話してくれました。彼女は手術室に泣きながら入りま

たが、結局医者が率先して中絶を実行してしまいました。

本人自身がまだ子どもであるこの14歳の少女が、自分の意志で殺人を犯したと果たして言えるでしょうか？父親の判断に無理矢理服従させられ、医者が女の子の子どもを殺したというのが真実なのではないでしょうか？

この医者は、私が16歳の時に出会った医者と同じ人でした。その医者は、もし最後まで子どもを身ごもっていたら、死ぬかもしれない、あるいは不妊になるか、あるいは私に言ったのです。そして、私があり中絶は受けたくないと言ったにも関わらず、

他の手段については何も話してくれませんでした。私の友達でもう一人、16歳の時に中絶を受けた子がいます。彼女が母親に妊娠のことを告げると、母親と二人で医者のごとろに行くことになりました。その医者は彼女に嘘を言い、妊娠していないと告げました。そして、精神安定剤を彼女に渡し、一ヶ月後、彼女は再びその医者を訪ねました。医者が部屋をいったん離れ、戻ってきてから彼女に言いました。「お母さんと相談して、君に中絶を受けさせることにした。君が服用していた薬が君の赤ちゃんを奇形にさせたはずだ。」

その友人は同意書にサインしましたが、大人である母親と医者

の顔を見て、何が正しいことなのかを知ろうとしました。後々、彼女は母親とその医者がどんなに間違っていたかに気づき、とても苦しみました。彼女は

何ヶ月も精神的治療を受けなくてはならず、結局精神病院に二週間も入院しました。彼女は、彼女が負った罪の意識と外傷から立ち直るのに何年もかかりました。

これらの女の子の話からわかることが他にもあります。それは、女の子達の中絶に対し親が決断を下していることから、その同じ親が、自分たちの娘に

中絶が道徳的に間違ったことであると判断させるための適切な精神的なトレーニングを施したとはとうてい考えられないという事です。このことは、予期せぬ妊娠に直面した若い女性にとつて非常に深刻な問題なのです。これら若い女性には、子どもを産むことを奨めてくれる人や、望まない妊娠に対する一番の解決方法が中絶なのではないという

ことを気づかせるべき情報を与えてくれる人が身近にいないのです。実際に、若い女の子達の多くは、例えば赤ちゃんを産みたいと思っても、中絶を強制的に受けさせられてしまうような誤った情報を与えられているのです。

もちろん、全ての女性が他人からの過度の圧力によって中絶を受けているわけではありません。多くの女性が自発的に中絶を受けています。また、忠告を受けても中絶を受ける人はいます。また、一部の女性は中絶を受けたことを後悔もしておらず、他人に同じように中絶を受けることを勧めているということも私は知っています。

しかしながら、私は多くの女性と話をしてきた経験から、「選択の権利」という言葉がプロ・チヨイス側からは「自分で決める」を意味し、プロ・ライフ側からは「自分の子どもを殺してい

る」ことを意味していると気付いています。でも、これら二つの考え方は、いずれも人々の状況を正確に伝えてはいないのです。

第二の犠牲者

多くの妊娠している少女や女性は、彼女らの胎児とともに中絶の犠牲となつていて、何となくして、人々に認識させなくてはなりません。

きちんとした告知に基づいた同意が得られていない、あるいは他人によって強制されているという事実を明るみに出させる手段を講じましょう。

中絶という傷を負った女性に対し、私達が寛大で慰めとなる友達になれるよう努力しましょう。

そして、私達は皆、罪人であり、神の恩寵が必要であることに絶対的に忘れてはなりません。私達の欠点と、中絶の悪に対して有利に戦うための力と英知のために神の御加護が必要なのです。

パウラ・ブラウン

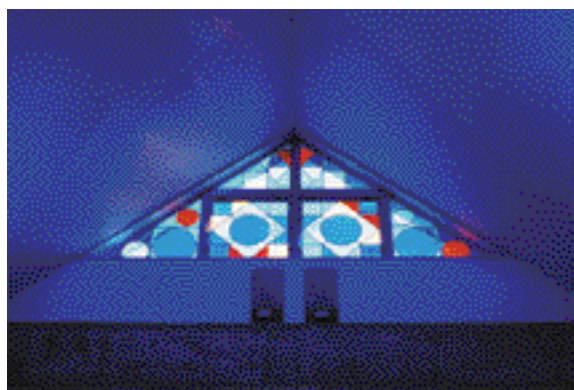


聖書は中絶についてどう語っているか

第一部

人工中絶のように議論のある事柄に直面した時、キリスト教徒としてのごく自然の反応はまず聖書を読むことでしょう。では、聖書の中に「中絶は間違っている」とか、「中絶をするべきではない」とか、「中絶という節があるでしょうか？ 残念ながら、聖書は中絶について直接にはふれていません。

しかしながら、生命に関する神のみ言葉には間接的な言及がたくさんあります。



最初の言及は、すぐに見つけることができます。「われらに似せて、われらにかたどって人間をつくらう。」(創世の書 一：26)「神はご自分のつくりだされたすべてのものをながめわたされた。これをよしとして満足された。」(創生の書 一：31)このように、人間が神のかたちに似せて造られ、それを神が「大変良い」と言われたことは、生命の神聖さを示しています。

聖書の全編を通して、我々人間は他の生物とは違い、永遠の魂を持つ神との関係が持てる唯一の生物であることを教えられています。

神はそれほどの価値を人命に与えたため、それを守るために明確な戒めを与えました。それが「殺すな。」(脱出の書 二十：13)です。さらに、詩篇 八：6では神と人間との関係について「あなたは人を神よりもやや劣るものとし、光栄と威厳をきせ、…」と述べています。

我々と神との関係は、ダビデ王が「母のふところから、私はあなたにゆだねられ、母の胎内から、私の神はあなただった。」(詩篇二

十二：11)とうたっているように、我々が母の子宮の中にいる時さえも明らかなのです。

生命に関する最も美しい箇所は、詩篇百三十九：13、16です。

あなたは私の腎をつくり、母の胎内に織りこまれた。恐るべき驚異のあなたを、私はたたえる。

そのみ業は不思議で、あなたは私の魂を知りつくされる。

私の骨はあなたに隠されてい

ない、私がひそかにつくられ、地の深みで

ぬいとりされたとき、あなたの御目はすでに私の

行いを見、それらはあなたの書の中に

あつて、日々が記され、集められた、

一日さえもまだなかったのに。

それでは、子宮の中の生命を我々はどうのように扱うべきなのでしょう

か？ それについて、聖書は非常に明確な指示を与えています。(創世の書 九：5、6)

人間の命については人間に、各人の命についてはその兄弟に問うであらう。人の血を流す者があれば、人の手でその血が流される。

神は、自らのかたどりとして、人をおつくりになつたからだ。

おそらく中絶にもつとも類似する言及は、脱出の書 二十一：22、25の下記の部分でしょう。

もし人があい争って、妊娠している女を打つたために、その女が他の害はなくとも早産したら、その人は、女の夫が求める弁償をしなければならぬ。その罰

金は裁判人の手をとおして支払われる。また、それ以外の害を与えたときには、命には命で、目には目で、歯には歯で、手には手で、足には足で、やけどにはやけどで、傷には傷で、打ち身には打ち身で償わなければならぬ。

たとえ妊婦やその胎児を傷つける意図がなかったとしても、「命には命、目には目」のように罰が加えられたというところが興味深い点です。では、中絶による意図的な殺人を神はどうご覧になるのでしょうか。

その手掛かりは、第二法の書 二十七：24、25にあります。「ひそかに隣人を打ちたたく者にはのろいあれ…贈り物をとつて無実の人を打ち殺す者にはのろい

あれ」生まれる前の赤ん坊以上に罪のない者が、どこにいてもいるのでしょうか。また、格言の書 六：16、19に、

神が憎まれる六つのことがある。

神のみ心がいとわれる七つのことがある。横柄な目、うそつきの舌、

無実の人の血を流す手、悪いことをたくらむ心、悪事に走る足、

讒言を吹聴する偽証人、兄弟の間を仲違いさせる人。詩篇百六：37、38にこうあります。

彼らは息子をいけにえとし、娘を悪霊にささげ、

こうして、幼い息子や娘の罪なき血を、

カナンの偶像のいけにえとして流させ、

国は血で汚れた。我々の国は、中絶医の手で殺され、大人の都合で犠牲になった罪なき子どもたちの血で汚されていないでしょうか？



第二部

イエス・キリストの十字架での死は、それだけで充分、神が我々に与えている価値の大きさを示しています。神は、そのひとり子をこの世に送り、我々のために死なせたのですから。

イエスは、マタイによる福音書 二十五：40でこう言っています。「まことに私は言う。あなたたちが私の兄弟であるこれらの小さな人々の一人にしたことは、つまり私にしてくれたことである。」

まさに、消滅させられようとしている胎児こそが「最も小さい者」なのです。彼らは無防備で、法的権利もなく、声を上げる術も持ちません。

神の民としての我々の使命は、その胎児と中絶した母親に憐れみの心を持つことです。意に沿わない妊娠をした女性の多くは、いと簡単に中絶だけが唯一の解決法だと考え、その結果何年もの間苦悩することになります。残念なことに、多くのクリスチャンの女性が、同じクリス

チャンの非難を恐れるあまり中絶を求めています。

このように、中絶によって傷ついた人が、その後長い間罪悪感に苛まれることがよくあります。心の底から悔い改め、神の慈悲を受け入れることによってのみ、中絶の傷は癒されるのです。

「私たちは、イエズスにおいて、その御血によってあがないを受け、豊かな恩寵に従って罪のゆるしを得た。」(エフエソ人への手紙 一：7)

「罪がたとい真紅でも、雪のように白くなり、緋のようであっても、羊毛のようになる。」(イザヤの書 一：18)

イリノイにあるウイロウ・クリーク・コミュニティ・チャーチの主任司祭ビル・ハイベル氏の話に偶然出会ったのは、ムーディ出版から出ている【中絶に對するある教会の答】という小冊子の中ででした。

『先日、ある長老と私は、重度の障害を負った10歳の息子を持つ若い夫婦のために祈っていました。父親がその子を抱いている様子を見て、私は涙が流れました。彼らを憐れんでではなく、

それほど純粹な愛を私は見たことかなくなりました。そしてこう祈りました。「神様、どうかお許し下さい。人々が、それは都合が悪いのです。口蓋披裂の子どもができるなんて。男の子



が欲しいのに、女の子が生まれるなんて。内反足の子どもができるなんて。それならいい方がましです。』と言った時、私が平然と同意してきたことを。」

中絶が悪であると、まだ納得しかねている人もいることでしよう。妊娠中、生命が危険な状態に陥った場合、選択肢は二つあります。(1)胎児を中絶する、もしくは(2)胎児の成長を見守る、です。

二つ目の選択肢については、何の「悪」もないことを同意していただけるでしょう。子どもの成長を待つことには、まったく「悪」はありません。

問題は一つ目の選択肢、中絶

です。もし、それが本当に「悪」であるという(確実性は言いつに及ばず)ほんの少しの可能性でもあれば、中絶をしないことが我々にとって唯一の答えです。

R・C・スプroul博士は、この概念についてその著書「中絶―情緒的な事柄に対する合理的意見」(ナブプレス)の中ではっきりと述べています。(73ページ)

『...もし二つの選択肢を与えられて、一つ目が明らかに正しく、二つ目は確実にはないものの恐らく間違っているという場合、二つ目を避けなくてはなりません。さもなければ我々は不注意から過ちを犯してしまいます。実際上の影響を見れば、明らかにことです。中絶を選ぶのに、人はそれを理由付けするために正当化しようとし、個人の好みにあわせたり、不都合なことを回避しようとする気持ち、またはそのような行いを社会や法が許しているからといって、信仰なき行いを聖書が許すわけではありません。このことは、中絶論争の立証は、神が中絶を許しているとする人々にかかっていることを意味しています。もし、神が許さないという証拠があるならば、信仰によって行動するため、我々は確固たる証拠を持たなければなりません。』

生命は受胎の瞬間から始まる

のであって、中絶は間違っている、という結論に達したところで、政府の役割についてはどうでしょうか。人間の法が神の掟を破るならば、神の掟が守られなくてはならないのは言うまでもないことです。聖書のわかりやすい例として、次のような箇所があります。衆議所がペトロとヨハネにいつさいイエズスの名によって、話したり教えたりするなと禁じた。ペトロとヨハネは、「神をおいてあなたたちに従うことが、神のみ前に正しいことかどうかは、あなたたちが判断しなさい。」(使徒行録四：18-19)

マイケル・アンセス



若者の考え

ビデオ

「沈黙の叫び」

中絶の意味

このビデオを見るまで私は中絶の本当の意味を理解していなかったと思います。それまでの私は、中絶の是非を真剣に考えることはなく、ただ何となく「行なうてはならないもの」と考えていました。しかし、このビデオを通して真剣にかんがえる機会を得ることができました。

中絶とは合法的なことであり、問題の正しい解決策では決してありません。お腹の中に芽生えた命は掛替えのない一つの生命であり、一人の人間なのです。その命を私達の誤った判断でなくすことは出来ないのです。日本を含め世界中で中絶が行なわれている現状では、中絶の本当の意味を知らずに一時的な感情で間違いを犯してしまう女性が沢山います。こういった苦しんでいる女性達を少しでも減らすには、中絶についての関心を深め、より多くの人達に真実を知らせなければなりません。私もこれからは人の命の重さを実感し、私が生きている間ずっと考えて行かなければならない問題だと思ってきました。

さみしそうな顔に

私は、中絶は個人の自由なので他人が口出しするようなことではないし、あとに傷ついてしまうのはその人が決めてやったことなので仕方ないと思いません。しかしあのビデオを見て思ったことは胎児には選ぶ権利がないということです。流産などで死んで

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女生..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの?..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたか..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない!..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィアAce エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料
- [404] いのちーおくりもの....(VHS)....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいもの = one&only....(VHS)....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる? 天使の鼓動....(VHS)....6000 + 郵送料
- [410] ビル先進国・英国からの警告....(VHS)...15000 + 郵送料
- [500] (本) 生命問題に関する... (カトリックの教え)...2987 + 郵送料
- [501] (本) 自然な家族計画... (ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
- [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ)....650 + 郵送料
- [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本) 赤ちゃん: 最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本) 経口避妊薬: ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

パンフレット申し込は・・・

- 1 ~ ~ 5 1部 = 35円
- 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
- 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
- 500 ~ ~ 以上 1部 = 15円

組み合わせは自由です

しまつたならあきらめつくし、前向きに考えることができるでしょうが、中絶は殺してしまうのです。あのポリバケツにつめられた胎児が生まれていたらどんなに素晴らしいか。でも、中絶は女の人だけの問題ではないのです。私はあのビデオは女の人よりも男の人に見せるべきだと思えます。男の人の言葉や行為だけで胎児をあんなに素晴しいか。男の子の様に育つてほしい、女の人を深く傷つけ最後に出てきた女性達のようなさみしそうな顔にしてしまうのです。 O・Kさん「高三生」

母親に感謝

ビデオを見てびっくりしました。中絶した子どもがバケツのなかに無残な姿で入れられていた。それを見て私は何とも言えない心境だっ

た。医者が母親のなかにくだみいたものを入れたとき、お腹の子は必死で逃げようとしていた。あんなに小さな体で必死に逃げようとしていた。あんなに小さな体で抵抗をしていた。中絶するのは良くないとは言えない。それなりに理由があるだろうし。ただ今では簡単にあんなに多くの人があんなに悲しい表情をしていたので後悔は大きかったと思う。

私は母親に感謝している。自分を産んでくれてちゃんと責任をもって育ててくれている。子育てというのは大変だと思うけど、「母親というものはそれもそれで楽しい。」と言つ。自分の母親がそういう母親で本当によかったと思う。自分もそんな母親になりたいと思う。

M・Fさん「高三生」

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬：ピル

| | | |
|-------|----------------|-----------|
| 注文： | 1 - - - - - 5 | 1部 = ￥100 |
| | 6 - - - - - 20 | 1部 = ￥75 |
| フルカラー | 21 - - - 999 | 1部 = ￥50 |
| | 1000 - - 以上 | 1部 = ￥35 |

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

自分への許し？

人は、自由に、たくましく楽観的に生きていきたいと思うものである。だから自分が悪い事をしてしまったとき、ある人は神の許しだけで足りないと考え、ある人は自分で自分を許せる様にならないといかないと言ふ。しかし、聖書によると、自由とはその人がそれを宣言したからといって得られるものではなく、私達が神から与えられたアイデンティティーと許しから得られるものなのである。

もしあなたと私がいっしょに犯罪を犯したとして、あなたは悪い事をしたと後悔していたとしよう。その時、もし私が「私はあなたを許す」と言ったら、あなたはどんな気持ちがるだろうか。恐らく私に「そんなことを言われても、ちっとも気は楽にはならない」と返事するだろう。あなたが必要としているのは、悪い事をした相手からの許しなのである。私達は罪深いから、自分達を許すことはできないというのが本当である。罪ある者が許すのではなく、無実の者が許すのである！もし私が罪を犯したら自分を許すことはできない。ただできることは無実の者の前に身をゆだね、その者の許しを受け入れることだけである。

私達の許しの原理

許しを受ける為に、自分のしたことを良いことだと認めたり、また、それと「仲直り」する必要もない。そうできると思うことは高慢である。私達がしたことは全く嫌悪すべきことかもしれない。しかし許しの原理とは神の愛である。あなたの神への愛であり、神のあなたへの愛なのであ

る。神は私達を愛して下さい、私達は神の許しを受け入れ生きて行くべきなのである。(ローマ人への手紙五：8、ヨハネによる福音書八：31-36)

許しを得るのが難しいという理由に、許しには自分の悪いことをおいて、考えをなおすということがある。私達の多くは自己非難に、又は神からの非難と解するものに慣れており、それがないと当惑してしまふ。許されるということは、私達の考えを変えることである。それはこれからは、私達は許された者として生きなければならぬということなのである。神は私達に謙虚になり、神に従って歩むことを望まれている。この従順な行為はもう慰めの為の自己非難や神からの非難ではない。何故なら神はキリストをもって私達を許して下さったからである。(ローマ人への手紙8章1節) それでは、もし私達は

もう非難のなかで生きなくて良いなら、神は私達にどうしろとおっしゃっているのだろうか？それはマホメットの言葉に一番良く表わされているであろう。「人よ、よいこととは何かを、主が、何をあなたに求められるかを、主は告げられた。それは正しいことを行い、善意を愛し、あなたの神とともにへりくだって歩くと、これではないか。」(ミカヤの書 六：8)

罪による締め付けを取り去って、イエスは私達に許しのもとを保証して下さい。私達は許されたと感じなくても良い。神を信じる事が大切なのである。(ローマ人への手紙四：3、ガラツィア人への手紙三：6-9)

ビル・ハインズ牧師、文学修士

女性への特別なメッセージ

私は中絶をした女性に特別なメッセージを送りたいと思います。教会はあなたの決定に影響を及ぼしたかもしれない多くの要因に気がついていて、多くの場合それは苦しく、精神的にショックを受ける決定であつたと信じています。あなたの心の傷はまだ癒えていないかも知れません。確かに起こったことは極めて間違つたことであつたし、いまもそのことに変わりはありません。しかし、気を落して、希望を失つてはいけません。むしろ、何が起こつたかを理解し、それに素直に立ち向かうように努めなさい。もしあなたがまだそうしていかないのなら、謙虚に我が身を捧げ、心から悔い改めなさい。慈愛あふれる神は和解の秘跡をもってあなたを許され、あ

中絶後の癒しの7ステップ

を許していると伝えよう。
中絶手術をした担当医をも
許そう。

認識7

「手放した子どもを、天の父であり創造主である神に託す」

中絶された子ども達は今

は愛され幸せで、十分に守られていく。彼らもあなたの笑顔と幸福を望んでいる。あなたを恋しがっているもの、責めたり非難してはいない。神の愛と慈悲のもとで暮らしているのだから。悲しみをいつまでも引きずらず、天国にいる彼らを安心させてあげよう。

1998年エリオット・イン
スティチュート

り、充分甲つべきである。あなたの悲しみは包み隠したり押しやる類のものではなく、ごく自然な感情なのだから。あなたの心が癒されるに従い、喪失の辛さも薄れていくだろう。

認識3

「あなたはひとりではない」

同じ経験をし、同じ試練に耐えている人は他にも大勢いる。その人達の体験と理解があなたにとつて救いとなるだろう。あなた自身が充分癒されたら他の人を助けてあげたいと思うように、彼らもあなたを助けたらと思うている。

認識4

「自分だけに責任を問うのではなく、他人にも非がある」

あなた自身と、あなたに中絶を勧めた人、あなたを思いとどまらせることのできなかつたすべての人に、神の御加護がありますように。

認識5

「自分を許す」

神はあなたが一生涯悔やんで生きることを望んでいない。あなたの罪は許された。神のもとで新しく生まれ変わった。いつの日か神の御許でなくした子どもを腕に抱く時がやってくと、心静かに待とう。

認識6

「他人を許す」

周囲の人達も、無知や不安や身勝手さからあんな言動をしたと理解しよう。できればあなたの方から彼ら

認識1
「完全に回復するまでには時間と努力がいる」

神の許しはすぐに得られなくても、さまざまな誘惑に打ち克ち、悲しみや疑念を断ち、全く新たな気持ちで生活できるようになるまでには時間を要する。

認識2

「愛する者を失って悲しむのは当然だし、そうすることは必要なことである」

肉親や婚約者を亡くして悲しむのと同様、中絶で子をなくすのは悲しい。中絶の場合は、否定的感情や罪の意識が邪魔し、甲いの過程をごく短期間に切り上げてしまうことが多いゆえ、修復されないうままになる。勇気を出して過去を振り返

あなたに安らぎを与えられる用意ができています。あなたは最終的には何も失われませんが理解できるように回復しましょう。そしてあなたはまた、あなたの子どもから許しを求めることもできるでしょう。なぜならその子は今、神様と共に天国で住んでいるからなのです。他の人からの思いやりのある専門的な援助や忠告を受け、あなた自身のつらい経験の結果として、あなたは全ての人の生きる権利を最も雄弁に弁護する人の一人となれるのです。

ヨハネ・パウロ二世、

命の福音、no.99